

## 宇治川に思うこと

私たち宇治愛鳥緑の少年団は、昭和 61 年 2 月に「自然を知るとは野鳥を知り、緑を愛することは野鳥を愛する」と言う活動目標をかかげて南部ジュニア野鳥教室から結成しました。それから 18 年が経ちました。主な活動は、緑の募金や山や公園に木を植えたり、宇治川で野鳥観察、河川敷きで空き缶及びゴミ拾いの清掃、テグス拾いして野鳥保護活動もしています。その他に宇治市名木調査や美化運動啓発看板立てなどもしています。(団員たちが公的な場で発表する時の前文)

活動は JR 奈良線宇治川鉄橋下流右岸の河川敷きを拠点とし野鳥観察は勿論、清掃活動を主に今日まで続いております。発足当時の河川敷きには木も多く又土手らしきものもあり。野鳥も多く特にカワセミが巣を作りヒナを育てその姿がよく見られました。しかしご存じの通り木は切られ、水面はコンクリートで固められ河川敷きも綺麗になり、又川の小さな中州の石ころもなるめられ、ややこしいものはなくなり本当に美しく綺麗になりました。が、これによってカワセミの巣場所はなくなり、木に止まり羽根を休めていた鳥たち、中州の小さな島では渡り鳥(冬鳥のハマシギ等多くの野鳥が安全な場所でゆっくりと羽根を休めていました。それも今は数も少なく殆どみられません。

人命第一、水害事故未然防止、又宇治は有名な観光地で景観優先、並々ならぬご努力によって綺麗なすばらしい宇治川になりました。又堤防で多くの方と雑談の中、60 才代主婦の方は「木が切られ綺麗に整備されていいですね、」と更に川下の木も全部切ってもらえばいいのにと、又 50 才代の主婦は犬を連れて散歩の方は、「自然が一杯、緑があって野鳥のさえずりが聞こえたり心がなごんでいたのに何故こんなことをするんだろ」と、又魚つりの人は川が綺麗すぎ、木の根コによどみ(深水)がありここでよく釣れていたがもう駄目ですと、改修工事後、14、5 名の一般の方との話しでは、綺麗になってよいですねが、3 名、木を全部切らなくても緑を、木陰を少しでも残して欲しかった。3 名、残りの人は一方的にそのままにして欲しかった。

少年団の中では、綺麗になり過ぎて、殺風景で味気無い、中州で色んな野鳥が羽根を休めているのを見ると心が和む、の音が殆どでした。

水害ついて、今の住宅事情が続く限り水害は免れないだろう。山をけずり、平らな野原は住宅、工場、道は全て舗装され集中豪雨でもあれば一気に流れ込む氾濫は免れない。(城陽市の農夫の話、見てご覧指を指し山の上まで住宅、昔はこれくらいの雨では氾濫しなかったと)

1、宅地、住宅分散、昔のように堤(調整池を多く作る)

1、昔のように曲がりくねりの自然の川、(水もよどみ、魚の生息もよくなり川と共に自然が復活)

1、河川敷きのある所、川面を全てコンクリートで固めるのではなく、昔のように、一部分でもよい、木の杭を魚が出入り出来る隙間を開けて打ち込む、(生木は水の所であれば百年はもつと言われている。特に松の生木は強い)杭の内側にグリ石を入れる。魚の絶好の

住家となる。また木材不況山林農家の活性化につながるのでは、木であればコンクリートのように手足を擦りむく怪我も少なくなるのでは、安全で費用のかからない尚且つ効率で目的達成はよいのですが、川、水は、心の故郷、緑があって、虫がいて、鳥が飛び交い、一時でも心の安らぎが持てるような環境にして欲しい。